

さみしい夜の句会報 第92号 (2022. 11. 20-2022. 11. 27)

- ◆ 参加者 徳道かづみ、しろうも、宮坂愛哲、電車侍、ゆりのはなこ、しまねこくん、てくてく、風池陽一、やー、IZU、susyu、鷺沼くぬぎ、森内詩紋、人見式二、hyuutoppa、西脇祥貴、日月星香、みや、元さん、おかもとも、雪上牡丹餅、海馬、花野玖、菊池洋勝、かのん、雲上晴也、おたま、常盤みどり、同居嫁の吹き、池田吉輝、最中妙、鴨川ねぎ、岡村知昭、soundily、みさきゆう、とんぼびーる、桔梗、葦、抹茶釜魚、西沢葉火、石川聡、金瀬達雄、Ryu_sen、糸瓜囃子、藤井臯、雷(らい)、コネコノピッチ、蔭一郎、高良俊礼、水の眠り、まつりへきん、石原とつき、輪井ゆう、山田もめん、ひなとと、夜間戦鬨、汐田大輝、たろりずむ、日下昊、星野響、小松、百合華、ササキリユウイチ、正念亭、若知古、のこりか庵、蜜、柘、秘密子、涼閑、白水ま衣、霧雨魔理沙、ぽつぽ、むぐみんママ、木野清瀬、涼、虹子、ミレ、Tomoko、馬勝、ハヤカワ、麻丹、man、PRTIC、いずみ、あかなず(梨山)、穂、けいえむ、檜崎進弘、土方あゆみ、ヤナ・ヤヌー、くわとろプロジェクト、U・Gao、一筆居士、月波与生丸〇名

◆ 7・7詩、5・7・5詩

熨斗紙を付くるちり鍋セットかな 菊池洋勝
家系図のここから上はサラダ味 白水ま衣
「女流」「女子」「女性」「女」がある世界 雪上牡丹餅
紅葉だけ貼った葉書の配達日 しまねこくん
上靴にありとあらゆるフォントの死 たろりずむ
表彰状(間奏3分) 以下同文 おかもとも
預言者の落ち込みかたが犬つばい Ryu_sen
臀筋を野性保護区に指定した Ryu_sen
夫婦から老夫婦へと変わる時 雪上牡丹餅

親機子機間で通話ができる距離 雪上牡丹餅

バウハウスの馬場が馬場がと悪の馬場 海馬

ミツバチの羽音を眠る 海馬

鶴の改名報ずるトマト屋の阿漕 ササキリユウイチ

アデイシヨナルタイム瞳から出た後は たろりずむ

狐火になる直前のいなり寿司 汐田大輝

じょうずお上手ハムレットは二槽式 海馬

反撃が無ければ秋刀魚かも知れぬ しまねこくん

向こう岸でみるくになる子牛 藤井阜

夏だった頃のサンダルを仕舞う しろとも

電話からカタカナだけが鳴っている おかもとも

人生の2%を皿洗い soundOnly

椅子がまだ椅子だった日の酸性雨 岡村知昭

エッシャーの階段上る文化の日 しまねこくん

鯛焼を裏返したら裏の顔 しまねこくん

知恵の実を象に食わせる文化の日 しまねこくん

二度見して二回勤労感謝の日 しまねこくん

毛布県毛布市毛布町生まれ しまねこくん

いつまでも泣くんぢやねえよ毛糸だろ しまねこくん

新月にくらりと歪むト短調 高良俊礼

甘噛みの果ては土星かメキシカン 西脇祥貴

眠剤をすあまで代える中島みゆき 西脇祥貴

朝食の美味い旅館に泊まりたい 宮坂愛哲

「美人すぎる」は 言い過ぎかもね 電車侍

年賀状宛先不明戻りくる ゆりのはなこ

誰が夢が混ざりくるのか冬の車窓 てくてく

放り込むネイルとしてのショートケーキ さー

市谷に果つ奇御魂荒御魂 IZU

下っ端の自殺 勤労感謝の日 IZU

正義の白の育ちし頃か大根ひく syusyu

小雪の小夜の風の音一人聞く 鷺沼くぬぎ
耳たぶを猫に噛まるる霜月夜 人見式一
もうこんな時間かあれはオリオンか Hyutoppa
消えた言葉はどうやって取り戻す 日月星香
少しだけ立ち止まる茶の花ありて 花野玖
友来たり 銀杏をよそに 語り合う かのん
ぶつたぎるフルーツロール冬銀河 雲上晴也
冬バエの叩くに忍べずうるさけり 流天
この気持ちどの地図記号で表せよう 鴨川ねぎ
障子越しの影絵遊びはまだする 黎明
昴が見える頃合いに落ち合おう 日月星香
惜しまれつつ斜めに逸れてゆく達人 抹茶金魚
ラジカルカロジカルか脳の川涸る 石川聡
今年も雪吊りだ 隣家の庭の木 金瀬達雄
カレーライス誰か私を思い出す 糸瓜囃子
赤信号に阻まれて牛を鎮める 雷
愛されて飼い慣らされて猫廃業 コネコノビッチ
葉か花かポインセチアの華やきは 水の眠り
縫いながら殴って食って診るになれ まつりぺきん
体液が重力を乗つとる術 石原とつき
私だけ知らない住み慣れた街を 輪井ゆう
この心時間だけ会いたい昔の恋人 山田もめん
甘やかな 光をとおす 柿すだれ かのん
地球にも突端生える凍月へ 星野響
みち を ゆずる あり の ぎょうれつ すぎるまで
正念亭 若知古
煉瓦道銀杏落葉の散らし紋 のこりか庵
ゆりかこの屋根の代わりに 西沢葉火
新月の夜の襖絵、瀧、叫び 涼閑
ナナカマド未だ生まれぬ無私の愛 霧雨魔理沙
風花や姉やと絵馬を読む遊び 木野清瀬

紅葉も散ってしまえばただのゴミ 涼

今日の日に居残りひとり吊るし柿 虹ミレ

鈍色の空ぼんやりと眺め居る Tomoko

母方の隔世遺伝木の葉髪 馬勝

から風も私の右手はね退ける ハヤカワ

保健室の先生じつはゾンビ好き いずみ

てっちりに申し訳程度の野菜屑 日下昊

おでん鍋ふて腐れ浮くがんもかな 雲上晴也

鴨撃ちを撃つ鴨撃ちを撃つ鴨撃ち あ

冬届くディアゴステイーニで少しずつ かなず

画数はワルシヤワというはかなさか 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

楽器屋の壁で古びていくチラシ「ボーカル以外全員募集！」

鈴音

わたくしの転校先の学校は十時十分だけ現れる 蔭一郎

必要とする時にだけ集められ捨てられていく側の僕です

常盤 みどり

ごめんねと言えはいよいよと言う君が覇気なく見つめる窓な

りたい 小松 百合華

夕焼けの飛行機雲はほどかれて君が来ないまま授業は終わ

る さー

君からのハガキに貼りし切手には南の春の消印がある 風

池陽一

内面の光と影まで描きたくて擦り切れるほど目で撫でまわ

す みさきゆう

ひつち田に何を捕るやら青鷺は魔法使いの身ぶりを真似て

森内詩紋

花は散る時間は進む当然が痛くて仕方ない夜を飲む みや

哀愁歌泣きたいときのエピローグ飾らぬ言葉聴こえて消えて
元さん

うらはらに逆さに立ててあった時回われ右するべきだった
のに 同居嫁の眩き

なぜ？なに？の答えを得ては笑み崩れる世界のすべてをい
まだ知らぬ君 最中妙

水墨の月夜が降りてきたような靄の向こうに常世の桜 み
さきゆう

あの夜は過ちなのか必然か事務所の床の埃を見つめ とる
ぼどーる

サファイア越しに見た空はソーダ色 外すと途端にカフェ
オレ色 ひなとと。

メイド型アンドロイドの液漏れを直すために行くゴースト
タウン 夜間戦闘

山茶花の簪をあなたの髪へほろりと染まる頬 日下晁
今日わたしあなたのもとをでていくの星のきらめく午前四

時 柀 秘密子
あなたにはあなたの正義わたしにはわたしの自由おでんが

冷める ぽっぽ
大きな息しか出来なくて後10年生きられるのかしら む

くみんママ
ヒートテックのお世話になるお世話にならずにはおれまい

PERCHES
あの鳥は私をヒトの標本と見ている 窓の向こうは流動

みさきゆう

◆ 詩

どうなるんだろ

ネガティブに待つのはほんま苦手

それだけ前向いてたいんだろな

前みたいなまたそういう感じならこの時間ほんと徒労だな

キツイ言葉に傷ついて

ふいうちアゴクイ

面食らう

それでもあなたはおかまいなしね

何処吹く風で今日もまた (おたま)

嵐の予感がするけれど

遠くで雷鳴轟いてるけれど

新しい靴履いちやうの

アタシ新しい靴履いて

思っし水たまり踏むの

かっぱつるの

ふふ (蜜)

◆ 作品評から

郷ひろみいつなんどきでも郷ひろみ 水の眠り

く名前を二度呼んだだけで句になる郷ひろみ。 (中青年な

ら郷ひろみの生き方を目指してみるのもいい。 (月波与生)

諦めが悪い女のスクワット 徳道かつみ

くここまで生きてわかったことは『筋トレさえできれば何とかなる』である。逆に筋トレが出来ない職場環境や人間関係は良くない。離れることを考えよう。 (月波与生)

あとがきに家出と書いて金木犀 千春

〜あとがきで怒っている人はいない。ありがとう、感謝します、みなさんのおかげです…。一日の終わりもあとがきのように終わりたいと思う。これから家出するとしても。

(月波与生)

アデイシヨナルタイム瞳から出た後は たりりずむ

〜このままじゃ終われない。(西沢葉火)

市谷に果つ奇御魂荒御魂 IZU

〜IZUさん、いつもありがとうございます。あのボウイが三島像を描いてたとは初めて知りました！素晴らしい描写力ですね、本質を見抜いていますねえ。(けいえむ)

透明は最も難解な言語 白水ま衣

〜「透明」「難解」「言語」の言葉の連絡が少しずつ緩い。なので「最も」で補強するが今度はおもたつく。このあたりが作句して泥沼的に難しくも面白いところ。(月波与生)

眠剤をすあまで代える中島みゆき 西脇祥貴

〜眠剤より効きそうです。わたしは金つば派。(樽崎進弘)

二度見して二回勤労感謝の日 しまねこくん

〜素敵な言葉ありがとうございます。またお読みしますね(土方あゆみ)

内面の光と影まで描きたくて擦り切れるほど目で撫でまわす みさきゆう

〜このうた、たいへん好きです(森内詩紋)

葉か花かポインセチアの華やぎは 水の眠り

〜闇から聖のイルミネーション (ヤナ・ヤヌー)

カレーライス誰か私を思い出す 糸瓜囃子

〜ハワイでね食べたココイチ忘れ得ぬ (くわとろプロジ
エクト)

紫煙吹き足立区民より届きし不幸の手紙を読んでいる 人
見式一

〜不幸の手紙が最後に届いたのは高校生最後の夏だった
が、届いた 10 人の誰かが続けて手紙は今でも彷徨ってい
るのだろうか。足立区の Y さんはお元気だろうか。(月波与
生)

下っ端の自殺、勤労感謝の日 12U

〜そういえば、パンクは労働者階級代表、みたいな立ち位
置でしたっけ。英国は特に階級意識が強い国ですからね。

(U・Gao)

縫いながら殴って食って診るになれ まつりぺきん

〜「音中に、縫う、殴る、食う、診る、なる、と」のつ
行為の要素を詠んでいるところ、チャレンジと思います。

テーマを詰め込み過ぎるな、どれが句の中心なのか分
りやすく詠め、動詞は多くしすぎるな、などの句会で通常に
指摘されそうなセオリーに昂然と反逆した構成に柳味を感
じて面白いです。(石川聡)

ミツバチの羽音を眠る 海馬

〜ミツバチの忙しない羽音を子守唄に眠る心境を思いま
す。心が落ち着いている時は、ミツバチの羽音はむしろ睡
眠の邪魔でしょう。何か不安ごとがあつてドキドキする心

臓の音とミツバチの羽音が共鳴することに安堵して眠れる
のではないかしら。十二音の切れ味が見事です。(徳道かづ
み)

毛布県毛布市毛布町生まれ しまねこくん

〜ふかふかや (名犬 ぽち)

いつまでも泣くんぢやねえよ毛糸だろ しまねこくん

〜ああ、そっだ、毛糸だった、と妙な納得感があります。

(花野玖)

夫婦から老夫婦へと変わる時 雪上牡丹餅

〜それは小さいけれど確実な一歩。他人から恋人になり、
恋人から夫婦になった。そして年月を重ねてともに老いて
いくことに、少しの寂しさと嬉しさがある。(徳道かづみ)

La maison diev とどめなら自分で刺す しろとも

〜「La maison diev」から始めるのはかなり勇気がある
と思います。(ほんとうに刺すからそこに立たないで 時実
新子)が出てから数十年、時は流れているのだと感します。
(月波与生)

あの鳥は私をヒトの標本と見ている 窓の向こうは流動
みさきゆう

〜人はいさ 心も知らず ただ我は

飛び立つための 風を待ちける。

返歌失礼しました。(一筆居士)

「女流」「女子」「女性」「女」がある世界 雪上牡丹餅

〜「美人すぎる」は 言い過ぎかもね (電車侍)